

会計事務所様のクラウド活用最前線

MFクラウド通信

2017

2

No.023

— SPECIAL TALK —

地域のお客さまへさらに便利に 質の高い金融サービスを

福井銀行

取締役 兼 代表執行役 藤取

林 正博様



マネーフォワード

代表取締役社長 CEO

辻 庸介

社労士事務所
interview

久野 勝也様
社会保険労務士法人 とうかい

クラウドを
選ぶのは当たり前で、
いつやるかという
タイミングだけ

会計事務所
interview

大橋裕之様
大橋裕之税理士事務所

「A」と戦うのではなく、
Aを使いこなす道へ



Money Forward

株式会社マネーフォワード
〒108-0014 東京都港区芝 5-33-1
森永プラザビル本館17階

会計事務所インタビュー

大橋裕之税理士事務所の大橋 裕之様にインタビューを行いました。

66 製販分離でプロセスを明確化⁹⁹

Q. 大橋裕之税理士事務所についてお聞かせください

「社長を元気に！」をテーマに静岡県沼津市で業務を行っています。元をたどると昭和30年くらいからある会計事務所です。3回の事業承継を経て、2001年に私が引き継ぎ代表税理士として、16年、経営者様のパートナーとしての会計、税務をサポートしています。基本は会計をベースに業務を行っています。経営者の皆様の相談役として、経営における最良の選択ができるようコンサルティングもしています。お陰様でリーマンショックの年以外は、ずっと増収で経営できています。

Q. この時代にそれだけ長く安定的な経営をされているのはすごいですね

私が入った頃から、ずいぶんと事務所自体も変わりましたけど、昔はまさにアナログで、すべて手入力でしたし、すごく静かで暗かったんですよ(笑) 税理士はいい意味で真面目なのですが担当任せになってしまう点がとても多く、共有することが難しい点もありました。

しかし今はきちんと役割を分けることで、製販分離ができています。社員で役割を分けコミュニケーションをとりながら仕事を進めることで、それぞれの業務における責任感も増し雰囲気も良くなり、結果的に経営数字に現れているといったところでしょうか。

Q. 製販分離は業務改善のために非常に重要と聞きます。社内の仕組みを変えるのは大変ではなかったですか

そうですね。急に方向展開するのはとても大変ですので、徐々に変えていきました。5~6年前になりますが、手始めにアナログな部分を仕組み化するための目標管理システムを作りました。お客様の売り上げも含めて、私達の仕事がきちんと納期までに上がっているか、社内の計画を管理するシステムです。

昨年からは、目標に向けた作業もプロセス管理をするようにしました。お客様ごとに年次業務カルテのようなものを作成して、一つひとつのTO DOに納期をつけ、進行状況も確認できるようにしたのですが、それがうまく機能していますね。自分の仕事を溜めこんでしまうと、後の工程の人に迷惑がかかるというプレッシャーもありますので、良い緊張感の中で仕事が進んでいます。

66 経営の目的を達成するための作業効率化⁹⁹

Q. クラウドソフトを取り入れることもそうですが、新しいことを始めるとするのは負担やリスクが大きいですよね。それでも積極的に変えていこうと行動できるのはなぜでしょうか

これは、当事務所の経営目的にもつながるところですね。以前、自分自身で経営目的について考えたことがあるんです。それまでは、中小企業を元気にして世の中に貢献していくことが目的だと思って



profile

大橋裕之税理士事務所 代表税理士

大橋 裕之様

静岡県生まれ。3度の事業承継を経て2001年から現職。税務・会計を通じて顧問先様企業の発展に注力すべく日々変革を続けている。また、一経営者として従業員の幸せも考え社内改革にも力を入れている。

いましたが、実感としては「社会に貢献する」という部分が現状とかけ離れてしまっていると感じました。

「社会に貢献する」というテーマが壮大すぎるのですが、だからといって「自分が食べていくためだけにやっている」というのとも違う。そんなときに、経営者の稲盛和夫さんの言葉に出会ったんです。「従業員を幸せにすることが会社の目的だ、という話です。お給料の額面などは自分次第にはなりますが、「この会社であれば大丈夫だ」と思ってもらえるような安心感がいいなと思いました。

Q. 会社で働いている従業員たちを幸せにする、というのはいいですね

でも、そう考えたときに「じゃあ、はたして今のままでいいのか？」という疑問が生まれました。時代というのは今も昔も変わらず変遷していて、かつてのニーズが陳腐化することの繰り返しなわけです。

まさに今 AI などの台頭もありますが、社会で生き残り、さらに従業員が幸せであるためには、お客様のニーズに応えつつ、時代の流れや環境の変化を敏感に捉え、新しいことにチャレンジしていくことが必須になります。

新しい会計ソフトの導入は、時代の流れに即した新たなチャレンジですが、「MFクラウド会計」を取り入れた結果、日々の業務が効率化された実感があります。多少の手直しと確認は必要ですが、ほぼ自動で仕訳作業が完了するので入力の手間はなくなりましたし、リアルタイムで顧問先様の会計状況を把握することができるのは本当に便利です。自動にすることで資料回収の手間もなくなり、従業員の時間工数削減だけでなく、作業遅延も減ったと感じています。「MFクラウド会計」のようなクラウドソフトを取り入れることで業務が効率化され、結果的にお客様によりよいサービス提供ができ、従業員の負担が減るのであれば、それもまた幸せであるといえます。

Q. トライアルすることは、リスクではなく「従業員を幸せにする」という目的の上では必要なことなんですね

まさにその通りです。税理士事務所として、顧問先様のためになることはもちろん、従業員のための業務改善は柔軟に考え積極的に取り入れるようにしています。新しいサービスや取り組みを考えたとき、ほとんどの方が欲しており圧倒的に足りないのが、「時間」だと思います。「MFクラウド会計」を使うことにより業務の効率化ができ、結果「時間」を生むことができました。その新しく生まれた時間は、相続や介護など新規のビジネスにあてることができています。これから先は、生産年齢人口も激減して事業者数も減っていく時代です。所得税や法人税だけではない範囲に手を広げていきたいですね。

大橋裕之税理士事務所

「企業の成長を日本の未来の原動力と位置付け、クライアントの経営サポートを通して社会に貢献する」を経営目標に静岡県沼津市で業務を行う。税務・会計のみならず労務、資金調達など経営者様の最良のパートナーとして信頼が厚い。

66 AIと戦うのではなく、AIを使いこなす道へ⁹⁹

Q. 今後業界にどのような変化が起こると思いますか

これは「MFクラウドシリーズ」を導入した理由にも関わりますが、AIを使いこなせるか否かで仕事の質や量がまるで変わってくるでしょうね。「大格差」(著タイラー・コーエン/エヌティティ出版)という本にプロとAIがチェスで勝負しAIが勝つ、という話があります。そこで生き残る人は、そのAIを使いこなせる人であったという話です。

時代の流れで世の中の自動化、クラウド化、AI化は止まらないと思っています。実際、日々の私達の生活で便利になる点は多々ありますし、自分の力だけに頼る時代は少しずつ終わりに近づいていると感じています。ただ、AIのいいところを上手く生かして使いこなせる人になれば、今以上のスピードでの進化は望めるとも感じています。新しい進化であるAIを脅威に捉え戦うのではなく、AIを使いこなす力をつけるべきだと、強く思います。

Q. 大橋様にとってAIの台頭は脅威ですか？それとも、チャンスですか

要は、時代の流れに合わせて変化できるかできないかです。よね。会計業務や税務業務は報告書を作る「こと」よりも、作ったものを「どう活かすか」というのが大事なわけですね。税理士の業務として作ることに価値があると思いがちですが、実はお客様は数字だけの報告ではなく、その報告書から何が分かったのか、その先はどうしたらいいのか、「提案」を求めているのです。そう考えると、作ることに時間をかける必要はなく、その業務をAIに任せられるという意味では、脅威というよりは、むしろ効率化による大きな可能性を感じますね。

今まで当たり前に行っていた仕事が無くなるというのは感じます。ただ、いつまでも同じ事業というものは存在しないというのはいつの時代も同じです。時代に適したサービスをどう提供していくか、ということが重要だと思います。

MFクラウド会計・確定申告

取引入力も仕訳も、自動でできるラクすぎる会計ソフト

